



なきごえ



1993

10



New Face

(撮影：前田 茂)

- 2 — New Face ソデグロヅル来園
- 3 — 動物と私 鳥も考える (樋口広芳)
カバーウォッチング メガネグマ
- 4 — 東北の自然
— 森の恵みと子どもたち — (澤口たまみ)
- 6 — サマースクール (谷森 進)
- 8 — グラフZOO サマースクール
- 10 — キーパーズアイ
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

メガネグマ

ネコ目 クマ科

Tremarctos ornatus

南米大陸北西部のアンデス山脈に生息しています。種名は目の周りの白斑に由来しますが、この個体はメガネ状にはなっていません。絶滅の危機にある大変稀少なクマです。

(撮影：長瀬健二郎)

||||| 動物と私 |||||

— 鳥も考える? —

鳥 は一般に、あまり考えたりすることなく、「本能の命ずるままに」行動していると考えられています。たとえば、托卵性のカッコウのヒナは、巣の中にある自分以外の卵やヒナを背中にのせて押し出し、親鳥（仮親）がもってくる食物を独占してしましますが、これは先を見越したヒナの行動などではなく、実は非常に機械的なものです。かれらはただ、巣の中にあるものは何でも、木の実であろうと消しゴムであろうと、「本能の命ずるままに」背中にのせて押し出してしまふのです。

し かし、中には、自分のやっていることの意味をわかっていると考えられる例もあります。私が研究したサギ類の一種、ササゴイの投げ餌漁（なげえりょう）が、そうした例の一つです。ササゴイはふつう、岸辺にじっとたたずみながら魚が近づいてくるのを待ち、射程距離内に入った魚にとびついてくわえとります。が、魚は簡単には近づいてきてくれません。ササゴイの投げ餌漁というのは、その近づいてこない魚を巧みに射程距離内に引き寄せて捕える漁法です。

ササゴイはまず、魚の餌あるいはそれに代わるようなもの（以下、まとめて餌と呼ぶ）をくちばしにくわえます。次に、魚の行動を見ながら、身



樋口広芳さん

(日本野鳥の会研究センター所長)

を低くしつつ餌を水面に投げ落としします。魚は餌の落下に敏感で、しばしば不用意に近づいてきます。そこでササゴイは、魚が射程距離内に入ってきたところで、すばやくとびついてくわえとるのでした。

餌としては、ハエ、アリ、ミミズのような生き餌から、木の実や小枝、羽毛のような疑似餌まで使います。ハエやアリは、石の上にいるものや飛んでいるものをつかまえ、ミミズは、水底の泥の中や石の裏などから見つけ出します。木の実や小枝などは、付近にあるものをちぎりとったり、水面からくわえ上げたりします。

ササゴイは、魚が食いつかなかった餌、あるいは食いついてもまだ残っているような餌を、とり戻して使います。場合によっては、同じ餌を10回以上もくわえ上げては使います。またときには、ある場所で使った餌を別の場所までもって行って再び使います。さらに、まれなことではありますが、疑似餌を使うだけでなく、作ってしまうことがあります。つまり、長めの小枝を両足の下にはさみ、はしを小さく折って疑似餌とするのです。

サ ササゴイはこのように、漁をするさい、明らかにそのときどきの状況に合わせて行動を変化させます。これは、何がどうなったらどうなるという、ものごとの前後関係を理解した大変かしこい行動であるといえます。ササゴイが含まれるサギ類というのは、鳥の中ではそれほど「高等」ではないと考えられています。したがって、こうした投げ餌漁のような行動がササゴイに見られるということは、非常に注目すべきことです。

もしかすると、ササゴイに限らず多くの鳥は、私たちが知らないだけで、じつはいろいろ考えながら行動しているのかもしれない、と最近私は考えています。

(ひぐち ひろよし)

ソデグロヅル来園 ツル目 ツル科

ドイツのバルスローデ鳥類公園からつがいが来園しました。9月10日から一般公開しています。国内では、当園を含めて3つの動物園でしか飼育されていません。



東北の自然
— 森の恵みと子どもたち —
澤口 たまみ (エッセイスト)

はるか縄文の昔、人々がまだ狩猟採集生活を営んでいたころ、落葉広葉樹林に覆われていた東北地方は、とても豊かだったと言われていました。

これまでに発見された遺跡の数から類推すると、縄文時代の人口は関東から東北地方にかけての東日本に集中していたと考えられるそうです。それはとりも直さず、当時の東日本の自然が、衣食住を支える豊かな恵みを、人々にもたらしていたことの証明でもあるのでしょう。

私の住む盛岡市の西のはしに、縄文時代の終わりごろに栄えたという稗内遺跡があります。ここには、たくさん住居跡が残されていたほか、皿をはじめとするさまざまな木製品や、人間や動物を形どった土製品、みごとな漆塗りの櫛、獣を狩るのに使われたであろう弓矢など、実に多様な遺物が発見されています。しかも川べりの湿地には、川魚を捕るために用いられたエリ（魚の通り道に沿って袋状に竇を立て、入った魚が出られなくなるようにしたもの）に似た構造や、当時の人々の足跡までが残されていたといわれています。

また、岩手県北部の二戸市の雨滝遺跡からは、たくさん土器や石器とともに、クジラの骨でできた斧や、ドングリやトチの実の皮を大量に捨てた跡が見つかっています。

さらに三陸海岸沿いに存在する貝塚では、イガイやアサリ、タマキビ、マテガイなどの貝殻はもちろんのこと、マグロ、カツオ、マダイなどの魚、クジラやオットセイなどの海獣、イノシシやニホンジカなどの骨が捨てられていました。岩手県の土壌は酸性で、動物の骨は残りにくいのですが、貝塚では石灰分があるため、このようにさまざまな骨が保存されているのだそうです。

したがって内陸地方でも、石灰分の多い鍾乳洞から発見される遺跡では、動物の骨がよく残されており、イノシシ、ニホンジカ、カモシカをはじめ、クマ、タヌキ、ニホンザルなどの骨が発見されています。また、岩手県の河川には氷河期の遺存種と考えられるカワシンジュガイが棲息しており、現在では河川改修やダム工事の影響で絶滅の危機が叫ばれて

いるのですが、かつてはかなり高密度に棲息していたらしく、多くの洞穴遺跡からカワシンジュガイの貝殻が見つかっています。

さて、以上のように縄文時代の遺物を見てくると、当時の人々が海や川、山の産物を巧みに利用しながら、自然と一体になって暮らしていたことが分かります。そして東北地方では、そのような縄文時代の暮らしが、つい数十年前まで確かに受け継がれていたのです。

それはたとえば、東北の山間で暮らす人々のあいだで、最近までドングリ食が見られたことからもうかがわれます。岩手県ではドングリの実のことを、方言で「シダミ」または「スタミ」と呼び、重要な食糧とされてきました。長いこと炭焼きをしてきた山の古老によれば、

「わしら山の者は、森のおかげで生きてこれたようなもんです。食べるものなら、まずスタミ。これは主食でやんした。そのほか、春から夏にかけてはさまざまな山菜、秋にはキノコを採って食べました。ワラビやオオウバユリの根っこを水の中でたたき、デンプン分をとって食べたりもしました。タンパク源だって、川魚やウサギが捕れやんしたから、たいして不足はしませんでした」

と言います。

東北地方に分布するドングリは主にコナラやミズナラで、いずれもアクが強く、生のままで食べることはできません。人々はドングリの実を捨てると、天日に干して虫を出し（ドングリの実の多くには、コナラシギゾウムシの幼虫が食入しています）、殻を剥いて、木灰を加えて火にかけます。するとドングリからは、真っ黒なアクが出るので、何度も水を替えて根気よくコトコトと煮ます。そうしてアクが抜けたら、そのままシダミ粥として穀物と混ぜたり、すり潰してダンゴにし、黄粉をまぶして食べたそうです。

私も見よう見まねでシダミダンゴを作ってみたのですが、真っ黒に煮上がったドングリをすり潰すと、ほのかにドングリの香りがするアンコになります。それに黒砂糖を混ぜて甘みをつけ、丸めて黄粉をまぶすと、思いのほか風味のあるダンゴが出来上がりました。私はそのダンゴの味を、ぜひ現代の子どもたちにも知ってもらいたいと思いました。お金さえ払えば、何でも簡単に手に入る世の中であって、雑木林に落ちているドングリを一つ一つ拾い、ゆっくりと時間をかけて作る素朴なダンゴの味は、とても貴重なもののように思われたからです。

そして何より、ドングリをはじめとする自然の産物を味わうことは、自然界に生きるたくさんの動物たちとの一体感を味わうことにつながるのではないのでしょうか。先に紹介した山の古老は、こうも言います。

「わしらが小さいころのクリ拾いは、たった今までクマがいて、クリの実を食べていたようなとこ

ろに行って拾ったもんさ。なあに、それでもクマに襲われた者なんか一人もいなかったよ…」

山の民にとってクマは、同じように森の恵みをいただいて暮らす仲間なのです。

私はそんな気持ちを、現代っ子にもできるだけ感じてもらいたいと思ったのです。幸い私は、盛岡市の小さな緑地で、月に一度の自然観察会を開いていますから、さっそく「木の実を味わってみよう」というプログラムを組んでみました。子どもたちとともに、ドングリやクリ、クルミやハシバミ、アケビなどの木の実を採り、味わってみるのです。もちろんシダミダンゴも作り、みんなで試食してみます。

木の実を拾うときには、動物たちの食べた跡もよく観察します。自然観察会の最中に、リスやネズミ、タヌキなどの野生動物が姿を現してくれることはめったにありませんが、子どもたちにとっては食べ跡や糞、足跡と接するだけでも、十分に心躍る出来事のようなのです。

「クルミの実を、きれいに半分に分けて食べるのはリス、左右から丸い穴を開けて食べるのはネズミなんだよ」

と話すと、子どもたちは思い思いに想像をめぐらせ、

「ここには、ネズミの食べたクルミの殻がたくさん落ちているね。きっと、この場所がネズミの食堂なんだよ」

「こんなに堅い殻に穴を開けるなんて、とっても歯が丈夫なんだね」

などと言って瞳を輝かせます。子どもたちの心の中には、生き生きと木の実を噛むリスやネズミの姿が、鮮やかに浮かんでいるのでしょう。

そんなふうに、森の動物たちに思いを馳せながら食べる木の実の味は、また格別です。あまりに素朴な味なので、子どもたちが食べてくれるか不安だったシダミダンゴも、ほとんどの子が「おいしい！」

と言って、いくつも頬ばってくれました。乾いた喉を潤すのは、あたりに生えているササの葉をヤカンにポイと放り込み、七輪にかけて沸かしたササ茶です。

また、木の実を味わうだけでなく、植物の根っこからデンプンをとってみたいこともありました。自然観察会を開いている緑地には、いたるところにクズが生い茂っているので、クズ粉をとってクズ餅を食べようと企んだのです。が、クズ餅を作るだけのクズ粉をとるのは、とてもたいへんな仕事であることが、すぐに分かりました。

まず、クズの根を探し出すために、クズのつるをたどりまわります。つるは、あちこちに絡みつきながら、長いものになると10mも伸びていました。根の深さも数mに及び、大人がすっぽり入るほどの穴を掘って、ようやく取り出すことができました。それを、水を張った大きなタライの中でたたき、

デンプン分を溶かし出して沈澱させるのですが、2mほどのクズの根からとれたクズ粉は、本当にわずかな量。クズ餅どころか、参加した子どもたちもそれぞれ人差し指の先ですくい、一口ずつなめただけで、たちまちなくなってしまうました。けれども、みんなで汗を流し、泥だらけになってとったクズ粉は、タライの底でキラキラと光っていましたし、それを口に含んだ子どもたちの表情も、自然の恵みをいただく喜びで、とびきり輝いて見えました。

自然保護が叫ばれて久しい昨今ですが、自然を大切に思う気持ちの原点は、こんなささやかな喜びなのではないかと、私は考えています。



クズの海の中、つるをたどる。



クズの根を掘る。

クズの根を水の中でたたく。



つるの長さは10m /

(さわぐち たまみ)

サマースクール

天王寺動物園では、1965年から小学校4年生、5年生、6年生を対象に動物園での飼育体験をしていただくために、毎年夏休みにサマースクールを開催しています。

以前この「なきごえ」誌上で、参加した小学生の感想文、お手伝いいただくボランティアの感想文等を掲載しましたが、今回はサマースクールがどのように行われているか、報告させていただきます。

サマースクールの準備は前年のサマースクール終了時に始まります。次年度に向けての反省と開催日程を決定します。日程は子供たちが一学期の直後の緊張状態にある期間を選び7月21日～7月26日の6日間に設定しました。

サマースクールのお手伝いをいただく動物園ボランティアの募集を3月に始めます。

この募集と並行してサマースクールの企画をするためのボランティア、飼育担当者、獣医師などの代表者による実行委員会を組織し、会議を何回となく開催し、サマースクールのカリキュラムを決定していきます。小学校4年、5年、6年の教育課程はかなり差がありますので、それぞれの教育課程に合わせてカリキュラムを作っていきます。獣医師、飼育担当者等の専門用語を使わないようテキストを作っていくのは苦勞がいろいろあります。自分の息子や、娘に言葉の意味について判るかどうか確かめることもあります。

今回のサマースクールのテーマは第1班(4年生)草食動物と肉食動物、第2班(5年生)サルと夜行性動物、第3班(6年生)鳥類と爬虫類にしました。

時間割はテーマに基づき次のようにしました。



第1班〔草食動物と肉食動物〕

第1日

- 9:15 受付、点呼
- 10:00 諸注意、記念撮影、自己紹介

- 10:30 ラクダ ラマ 10人 カバ 10人
 - ラクダの形態についてクイズ形式で解説
 - カンガルーの触察 ◦カバの口の中の観察
- 12:00 昼食 休憩
- 1:00 キリン
 - 餌の説明 ◦寝室へ入室(寝ワラの説明)
 - 採食観察(乾パン給餌) ◦舌の長さの測定 ◦身長測定
 - ゾウ
 - 危険について説明 ◦寝室へ入室 ◦採食観察(フスマ ベレット スイカ)

3:00 解散

第2日

- 9:15 受付、点呼
- 10:30 トラ、ヒョウ 10人 ライオン、オオカミ 10人
 - 寝室見学 ◦餌の説明 ◦オス、メスの見分け方 ◦ライオンの子を近接観察
- 12:00 昼食 休憩
- 1:00 学習のまとめ
- 2:30 終了式
- 3:00 解散

第2班〔サルと夜行性動物〕

第1日

- 9:15、10:00〔草食動物と肉食動物〕と同じ
- 10:30 夜行性動物舎
 - 動物舎清掃 ◦餌の調理と給餌
- 12:00 昼食 休憩
- 1:00 ゴリラ
 - 餌の説明 ◦寝室へ入室
- 2:00 チンパンジー オランウータン
 - 餌の説明 ◦動物の説明 ◦チンパンジーのマカデミアナッツ割りの観察とマカデミアナッツ割りの実習

3:00 解散

第2日

- 9:15 受付、点呼
- 10:00 サルヒビ舎、サル島
 - ビンゴゲームガイド ◦「わかるのはきみだ」ゲーム
- 11:00 コアラ
 - 餌の説明 ◦コアラの特徴の説明
- 12:00 昼食 休憩
- 1:00 学習のまとめ
- 2:30 終了式

3:00 解散
第3班〔鳥類と爬虫類〕

第1日

- 9:15、10:00〔草食動物と肉食動物〕と同じ
- 10:30 鳥の楽園
 - 餌の説明 ◦飼育鳥類の説明 ◦孵卵器の説明 ◦人工孵化した雛の説明 ◦バードウォッチング

12:00 昼食 休憩

- 1:00 ワライカワセミ キジ 10人 走鳥 10人
 - 孵卵器の説明 ◦ペリット分析
- 1:50 小鳥の家 10人 ペンギン 10人
 - ペンギンの説明

3:00 解散

第2日

- 9:15〔草食動物と肉食動物〕と同じ
- 10:00 爬虫舎
 - 体重測定 ◦調理実習 ◦清掃実習
 - 採食観察

12:00 昼食 休憩

- 1:00 学習のまとめ
- 2:30 終了式
- 3:00 解散

以上の時間割に基づき進めていきます。



各班は、3組6グループ10名ずつ計60名で構成され、それぞれのグループにボランティア4～5名がつきます。

ボランティアの主な役割は、調理実習や清掃実習、触察、実験などカリキュラムに沿った引率、指導などですが、サマースクール期間中は夏休みの子供たちを、例え2日間でもおあずかりするわけですから、動物園は社会教育の場という基本的な立場からも、指導者として、子供たちにあいさ



つの仕方を教えたり、健康状態に注意したり、飼育担当者の話をきちんと聞かせたりしながら、動物に興味をもたせ、動物のことを考えるきっかけをつくるようにすることが大事な役目となります。

4年生～6年生のワンパクざかりですから、飼育担当者の話を聞かない子、悪ふざけをする子などいろいろとありますが、この年代ですからある程度は仕方ないことです。しかしわがままを許すだけでなく、集団の中での規律を守ることを覚えさせることも大切なことです。

また、サマースクールでは直接動物舎の中に入るなど危険を伴う作業もありますので、特に注意を要するところです。

子供たちは、ボランティアの指示に従って各動物舎で動物に触ったり、餌を調理したり、調理した餌を与えたりしながら、飼育担当者の説明を受けていきます。

日頃、体験出来ないことや、聞くことのできない飼育担当者の苦勞話、見ることの出来ない動物舎の裏側に、子供たちの目も輝き、真剣に話を聞く姿、そして飼育担当者に鋭い質問をする姿は、普段の学校での授業風景とはまた一味違ったものがあります。

ある程度年齢を重ねた者にとって、子供のころ経験した自然との触れ合いも、近年とりまく自然環境の変化とともに、今の子供たちには、経験できにくくなっています。



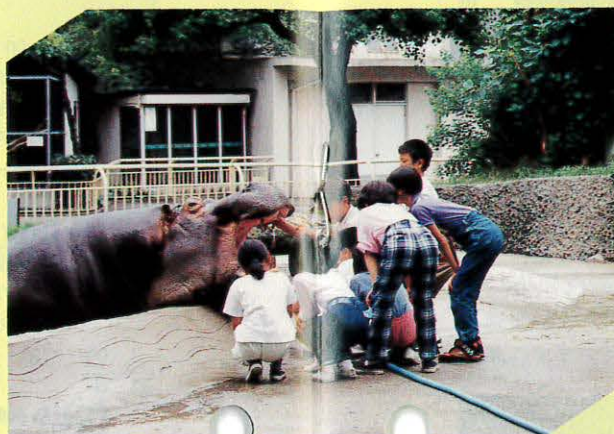
サマースクールでの体験は与えられた受動的な体験となるのはやむを得ませんが、それでも生きものに直接触れたり、餌を与えたり、動物舎に入って掃除をするという体験を通じて、動物を身近に感じ、理解を深めるための大きな手掛かりになっていくものと考えられます。

来年には20回目を迎えるサマースクールをより充実したものにするため、私たちスタッフも、これまで参加した子供たちの意見をアンケートとして集計、今後のサマースクールに反映していくことが出来るよう、実行委員会で討議していきたいと考えています。

(管理課：谷森 進)



近くで動物の観察を行っています。
「キリンの舌は長いんだねえ。」



「大きなカバの口、虫歯はあるのかな？」

グرافZOO

サマースクール

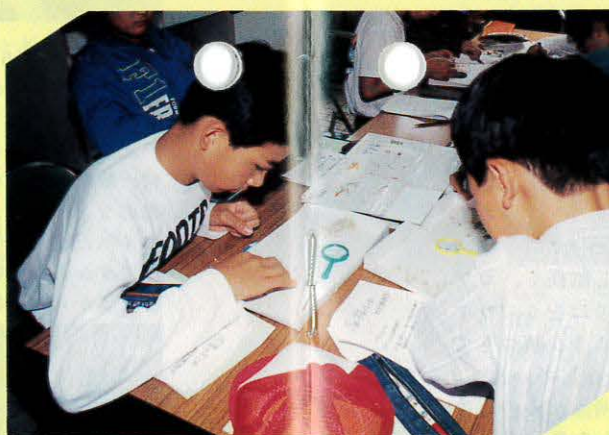
さて今月のテーマは、毎年恒例になりましたサマースクールです。
いったいどんな活動をするのだろうかと思われる方も多いでしょう。
そこで内容を皆様にご紹介したいと思います。



カンガルーにエサを与えていますね。こうやって
身近に動物と接することもできます。



もちろんエサの調理もします。
「わあー、大きい包丁だなあー。ゾウガメはボクの
作ったエサを食べてくれるかな？」



虫めがねでワライカワセミのペリート（口から出
す不消化物）を見ているところです。みんな真剣そ
のもの。

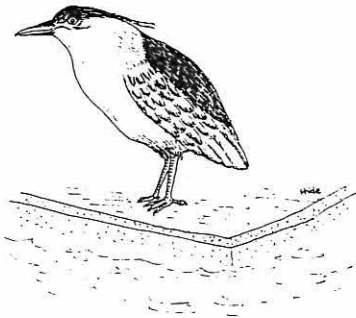


ここではサルについてのお話を聞いているとこ
ろです。
「ふーむ。なるほど、なるほど」

キーパーズ アイ

ゴイサギの特技

動物園には、一年を通じてたくさんの種類の野鳥達がやって来ます。小鳥から小型のツル位の大きさのアオサギまでさまざまな野鳥が見られます。頭と背が黒く後頭部に長い白い冠羽があり、羽と尾は灰色で、くちばしは黒く足は黄色でカラス位の大きさのずんぐりした鳥。それはゴイサギです。夕方から夜にかけ川や池で魚をとり生活しています。養魚池などで魚をとられる被害が問題になることもあります。園内のフラミンゴ池やペンギン池にも午後4時半位から5時頃にやって来て、ゴイサギたちのディナータイムが始まります。ペンギン池では、成長2羽、幼鳥1羽をよく見かけます。



ペンギンがエサを取るために水中にもぐると、体を低く頭を前につきだすすぐ飛びだせる体勢をとってペンギンの動きを目で追っています。そしてペンギンがアジをくわえて水面に浮上したのを待ってましたとばかり、ペンギン目がけて飛び出し口にくわえているアジをさっと横取りします。ペンギンは何があつたかわからずキョトンとしています。でもいつも成功するとはかぎらず、ゴイサギのダイビングをさっしペンギンがうまくかわすこともあります。いつもいつもエサを横取りされては、ペンギンもたまりませんからね。又、ペンギンが泳ぐ水流でアジが浮き上がる瞬間をとらえて、一瞬にしてアジをつかみ取ります。池や川で泳いでいる魚を捕るより楽なのでしょう。大阪市内では、簡単に魚を取れる場所が少なくなったのでしょうか。都会に住む鳥達の生活の知恵なのでしょう。 (飼育課：野口 秀高)

コアラの赤ちゃん

1992年9月25日がコアラの出産予定日です。母親は“ミドリ”、父親は“ハク”で8月22日に交尾をしました。ちなみに妊娠期間は34日でした。

“ミドリ”は産気づくと陣痛が来ると背を丸め腰をつき出すようなしぐさをします。何度かこういう動作を行い、出産場所をさがして前かがみになり、後ろ足を少し開きじっとしていると、やがて赤ちゃんが生まれます。コアラの仔は未熟児で、目を閉じていて、毛も全然生えていません。そんな仔が育児のうめぎして一生懸命はい上がっていきます。育児のうまでは、親が毛をなめて道を作るのか、真中がたてにわかれています。親は出産時は何もしないでじっとしているだけです。うまく育児のうにたどりつけばいいのですが、途中で落ちてしまう仔もいます。落下した仔は、すぐ拾い上げて、人工哺育をこころみてもま

ず助かりません。力の強い元気な仔が育児のうに入り乳頭に吸いつき、力が弱く育児のうにたどりつけなかった仔には、死がまっているという自然の摂理なのでしょう。

さいわいにして今回の赤ちゃんも無事育児のうに入り、すくすくと成長しました。5ヶ月位たつとかわいらしい手や足を、育児のうから出し始めます。さわるとさっと引込め、育児のうの中をもももど動き回るのが見られます。そして時々顔の一部を出すようになります。顔は少し細長く、コアラの特徴である大きな黒い鼻も黒くはなく、うす茶色をしています。少しとぼけたような顔つきであまりかわいいとはいえない顔をしています。顔を出し始めると育児のうから全身が出るのもすぐで、鼻も黒くなり、ふわっとした長い毛におおわれ、かわいい姿になります。この頃より母親の背中におんぶされているコアラの赤ちゃんがみられるようになります。

(飼育課：野口 秀高)



8月1日 昨年9月25日に生まれたコアラの赤ちゃんの命名式を行いました。赤ちゃん



の名前は、応募総数13,000通の中から厳正なる審査の結果“クミ”に決まりました。命名者の中から抽選で50名の方に記念品としてコアラのぬいぐるみをプレゼントしました。

8 / 2. ブラックバックの赤ちゃん(オス)が1頭生まれました。

8月8日 7月14日にシンガポール動物園から来園したチンパンジー母子の一般公開を



始めました。展示場所はチンパンジー舎のサンルームで、他のチンパンジーとの見合いも兼ねています。

8 / 9. ボールパイソンを1頭保護しました。

8 / 11. コウノトリのヒナが3羽全て巣立ちしました。

8月15日 第99回動物のお話とスライドの会「ゾウのふれ愛ガイド」をゾウ舎にて開催



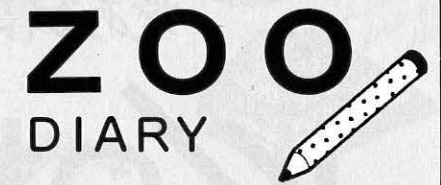
しました。ゾウに与えている餌の種類を紹介し、実際にそれぞれの餌の食べ方を説明しました。

8 / 16. 7月2日に来園したメスのライオンと他の若い2頭のライオン(オス、メス)を同居展示するため、まず、オスと同居テストを始めました。

ニホンジカのメス1頭の爪切り(削蹄)を行いました。

8月17日 国内最長老のチンパンジー“シュジー”(メス)の一般公開を始めました。展示場

今月もおもしろ情報満載



所はチンパンジー舎の屋内展示室です。



8 / 18. ブラッザゲノンの赤ちゃんが1頭生まれました。

8 / 20. カワセミを1羽保護しました。ブラックバックのメスが1頭生まれました。

7月2日に来園したメスのライオンと既にあるメスのライオンの同居テストを始めました。

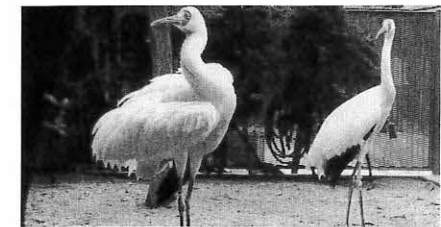
8 / 22. 8月20日に保護したカワセミを自然復帰させました。

8 / 23. マレージャコウネコの赤ちゃんが生まれました。泣き声から複数の赤ちゃんが生まれたようです。

8 / 26. モモイロペリカンがペリカン池から飛出さないように羽の一部を切りました。

8 / 27. 今年孵化したカモ類の一部(アカハシハジロ、ツクシガモ、カルガモ、オシドリ)が大きくなったので、個体識別のため脚帯と翼帯を付けて「鳥の楽園」に放しました。

8月31日 鳥の動物園として有名なドイツのバルスローデ鳥類公園からソデグロツル1つがい来園しました。検疫が終了した9月10日からツル舎に展示しています。



☆テレホンサービス：771-9999

☆お知らせ：●秋の動物と花のフェスティバル'93 期間：10月17日(日)～11月7日(日)

●動物園のおじさんのお話

「ピンゴでガイド」

日時：10月17日(日) 午後1時～

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

〈くらしかいかたシリーズ〉既刊本
B5変型判・オールカラー・各定価680円

むし くらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。



ひかりのくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費／年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

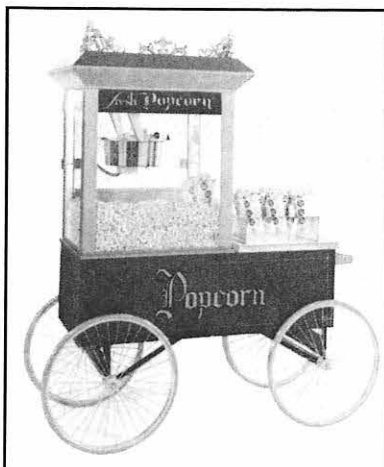
大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

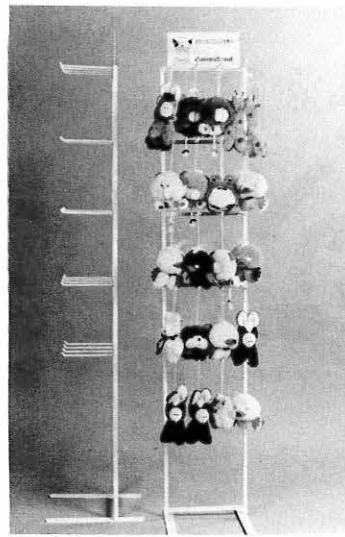
マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165



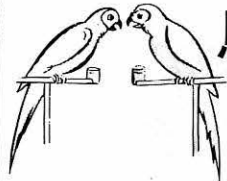


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

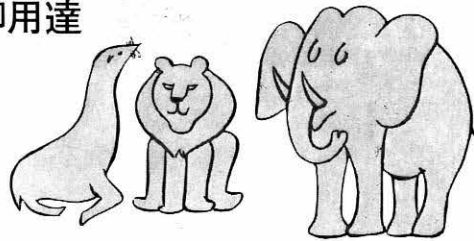
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

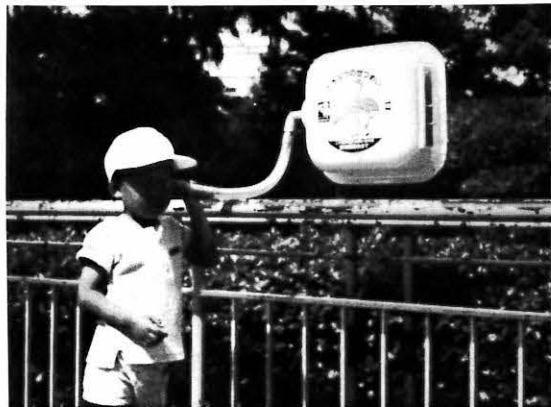
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地
電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

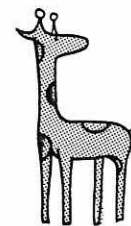
中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our Yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



「ほりたてミルクのおいさが、生きている。」

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地に
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1993年10月10日発行 (毎月10日発行) 第29巻 第10号 (通巻338号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員 (中山良三郎 / 岩倉善樹 / 中尾啓一 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 吉本昌俊 / 山根和弘 / 谷森 進 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 柳原安昭 / 森本委利 / 竹田正人 / 永田健一 / 前田 茂 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 堀内智生 / 大川光雄 / 土谷正道 / 山元貞幸)